

事業報告書（令和6年度）

事業名 包括的性教育をもっと身近に！プロジェクト 2024

団体名 Life is 担当者名 東海林みゆき

※活動の様子がわかる写真と説明を必ず添付してください。

1. 活動内容（日時、場所、参加対象者、人数、内容等）

第1回 2024年7月28日 13時～16時

コワーキングスペース「ひとやね」（岡山市南区古新田） 34人（うち成人男性12人）

講師：①佐々木恵梨氏 ②横山浩花氏

テーマ：国際セクシュアリティ教育ガイダンスが示すキーコンセプト2「価値観、人権、文化、セクシュアリティ」ユースの視点

①「性教育と避妊アクセスから見るデンマークとオランダのSRHR（性と生殖に関する健康と権利）」

・内容

2024年2月、一般社団法人ソウレッジ主催の「デンマーク・オランダへのSRHR視察報告。

デンマークの性教育内容は知識よりも態度に比重を置き、日本よりも具体的で実践的。また、ありのままの体を前向きに受け入れること、セクシュアリティはFLUID/FLOATING

（流動的、浮遊している）など自身がどう捉えるかということを伝えている。佐々木氏より「後ろを振り向けば進歩があるはず。先進国と比較して嘆くだけではなく、共に学び合うというマインドセットが大事。」「文化的背景や医療制度が全く違っている。日本らしいアプローチがあるのでは。」とまとめ。

・感想

「デンマークとオランダの視察の報告で、包括的性教育に視点をおいた興味深いお話でした。視察の内容も簡潔でわかりやすかったです。佐々木さんのFLOATINGや包括的性教育のNORMALIZE、ユースクリニックになどのお話しも気持ちがこもって良かったです。

「自分の知らなかった海外の性教育などのことを知ることができて、新たな知識を得ることができました。ありがとうございます



ました。また、進んでいると思っている海外も、その国独自の課題はあるという言葉が、とても新鮮でした。きっと、どの場面でもそのことはいえて、その課題だと思っていることを様々な人と考えていくことで、世の中がよりよくなっていけばいいのだろうなあと思いました。」

② 「私たちも社会を変える？-第68回国連女性の地位委員会（CSW68）に参加して-」

・内容

もともとジェンダーに興味のあった横山氏が国内外のジェンダーによっておこる問題を学び自分事として考えたいと参加したCSW68での学びを報告、共有。ユースは大人から不足している知識や経験を学ぶだけでなく、大人に新たな考え方、視点を伝える相互関係にあること、世界を変える大きな力を持つのは政府だけではなく、NGOや市民団体といった私たちと同じ一般の人が身近な出来事に疑問をもち、声を上げることで同じくらい大きな力となることなど。そのためにも安心して話せて、学べて、発信できる場所を岡山で作りたいと提言。



・感想

「安心して話せて、学べて、発信できる場所を岡山で作ることに関して、何らかのお手伝いができないかと思った。」

「身近に疑問に思う事はたくさんあるのに行動を起こしていないなあと思いました。」

「民間の視点からできることを考えられているのがとてもすばらしいと思いました。」



第2回 2024年11月16日 13時～14時30分

岡山市立足守公民館 30人（うち成人男性6人）

講師：大和美菜子 氏

テーマ：国際セクシュアリティ教育ガイダンスが示すキーコンセプト3「ジェンダーの理解」LGBTQ当事者による体験談

内容：レズビアン寄りのバイセクシャルである大和さんから幼少期からの体験談。



- ・LGBTQ とは
- ・自分は何者なのかと悩んだ時期
- ・親へのカミングアウトについて
- ・結婚、出産、離婚経験について
- ・当事者からみなさんに知ってほしいこと（LGBTQ というのは辛いことでも悪いことでもなく、自分のように幸せな人はたくさんいる。もしも身近な人からカミングアウトを受けた時の反応には気を付けてほしい。決して親の育て方が悪いということではない。）



- ・性指向、性自認のワークショップ（二次元のグラフに自分がどこに所属するか印を付けてもらった）

感想や反応：

- ・75 分くらいの話だったが、参加者は飽きる様子もなく、集中して聞いておられた。
- ・面白く誇張することなければ、隠すということのない等身大のお話だった。
- ・子ども参加は2名。付き添いで参加した様子。
- ・「明るく楽しい話で良かったです。私も同じ立場ですが、こういうふうにお話される中で、聞いた人たちにとって身近で、「周りに自然にいる人」になるんだろうなと思いました。



・「マイノリティという言葉があること自体に少し残念な感覚をもっていました。今日のヤマト社長のお話、その在り方や生き様からは、その言葉を跳ね除けるパワーと影響力があることを感じさせていただきました。オンライン／リアル／メディアを問わず、ぜひ多くの場に出ていただきたいと思います。」

・「明るくわかりやすいお話をありがとうございました。「親の育て方は悪いということとは絶対ない」というところでうろっとしました。大和さんの、誰も否定しないという所が、自身の経験からの認め合うことの大切さが身についているんだな、と思いました。」

第3回 2024年12月25日 10時～11時30分

ひらた旭川荘(岡山市北区平田)、15人（うち成人男性1人）

講師：おっ産ず 氏

テーマ：国際セクシュアリティ教育ガイダンスが示すキーコンセプト8「性と生殖に関する健康」お産劇

内容：

おっ産ずさんメンバー4人による「命の成り立ち」の紙芝居、お産劇、産道体験など。

感想や反応：

・「痛い」「いやだ」という表現のないお産の様子は恐怖のない、感動にあふれるものだった。

・元気いっぱいの子どもたちの参加で、子どもの保護者は他の家族に迷惑ではないかと不安そうであったが、おっ産ずさんの上手な声掛けで、子どもたち

も自然体で話を聞くことができた。保護者も「おっ産ずさんお声掛けがあったから、子どもたちの行動にハラハラせずにお任せしようと思っていました。子どもたちも注意を受けるともつとにぎやかになったりするが受け入れたもらったことで落ち着いていったよう。」と

・大きな産道模型の産道をくぐる体験では、「最初はやりたくない。お前やれよ～」という雰囲気流れていたが大人が楽しく体験して見せることで最終的には何回も何回も産道を通り、「見てみて、双子～」など変化を加えて楽しんでいた。

「忙しい毎日を送る中で忘れてしまっていた」「小さなころから家族と一緒に学ぶ性教育ってステキです！」などの感想を頂いた。



どの子も真剣な表情。「いやらしい」「恥ずかしい」という感情はなさそうに見える。(自分が注目されることへの恥ずかしさはある。)

2. ESDの視点

① 事業を通じて、参加者にどのような気づきや意識・行動の変容があったか

今年度の取り組みでは、ジェンダーに比重をおくこと、包括的性教育を受ける機会の少ないと思われる成人男性に参加してもらうことを意識して企画した。第1回、2回では狙いの通り例年より多い成人男性に参加してもらうことができ、「これまでイメージしていた性教育と180度変わった。」「もっと早くから出会っていたかった」などの感想を頂くことができた。またこのプロジェクトを2022年からはじめ3年目となり、包括的性教育を受ける側の方だけでなく、岡山県教育委員会の方など、事業を企画する方々にも参加していただくことができた。イベント内で出会った者同士で新たな取り組みが始まるなお、スピーカー、講師らの今後の活動の支援者となってくれる方に出会うなどの場ともなった。

② どのように学び合いを取り入れたか

企画段階から、前に立つ人が伝える人、参加者が学ぶ人、という一方通行にならないように、講師の方々にもそれを伝え、相互が学び合う関係でいられるように意識した。

各回、ワークショップを設けるようにした。第1回では4人程度のグループを複数つくり、「包括的性教育がもっと身近になるための作戦」をそれぞれ考え発表してもらった。第2回では「自分の性自認と性指向を改めてみつめる」を目的に、自分が位置するところに付箋を貼るワークを行った。他者（無記名）

の性自認・性指向についても視覚化することで感覚的にとらえることができた。第3回では体験できる取り組みを多く取り入れ、最後には茶菓子を取りながら感想、これまでの経験などを参加者、講師と共有し合った。



③ どのような学びと実践を結び付ける工夫を行ったか

学び合いののところと似ているが、一方的にスピーカーの話を聞くだけでは知識が増えたこと、疑似体験ができたことで終わりになりがちだが、グループワークなどアウトプットの時間をとることで、自分ごとと捉え、自分には何ができるか、自分だったら何をするかを考えてもらう時間を大切にした。

3. 取組の成果（事業計画書に記載した事業の目的・目標をどのように達成できたか。事業を実施してどのような成果があったか。）

- ・包括的性教育に触れる機会となり、メリットを理解してもらえ、包括的性教育の支持者を得られた。
- ・これまで包括的性教育を受ける機会が特に少なかったと考えられる40代以上の男性の参加人も増加傾向にある（年間のイベント回数が毎年違うため比較しにくいところはある）。

4. 今後の課題と展望（事業がどのように岡山地域のESDの取組と持続可能な社会づくりの発展・継続につながるか）

- ・現段階ではイベントのその日のみの関係という方も多いので、継続的・定期的に顔の見える、話し合いのできる関係を構築できるよう居場所づくり（実際の場所、SNS上の場所）も必要と感じた。
- ・各回イベント開始時にはESDについてお話させてもらっている。SDGsは知っていてもESDを知っている人はまだ少ないが、当イベント中には自然に「自分事として捉える」「(多様な)価値観」などESD視点に大切な用語が多く飛び交う。包括的性教育とESDには共通点も多いため、二つの大切な学びを相互的に周知してもらえるように今後も意識しながらイベントを継続していきたい。